

教育レポート 全国学力・学習状況調査

全科目全国超えをキープ 学力の高さが表れる

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。学力調査では小・中学校の全科目で全国平均以上に。着実に学力向上が進んでいます。

問 教育センター／TEL675-0398 ID 005061

全国学力・学習状況調査とは

全国の小学6年生と中学3年生を対象に行う調査です。今年度は国語、算数・数学、英語の学力調査と、学習や生活に関わる状況について質問紙調査を実施しました。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

学力調査

昨年につき、好成績に

小学校 2年連続で2教科全国平均超え

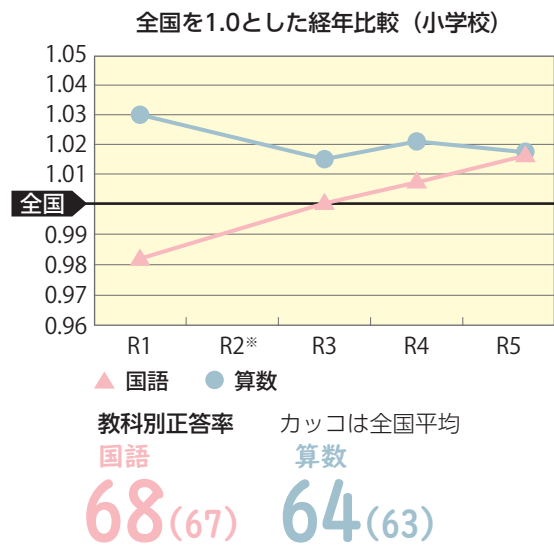
国語、算数ともに、全国平均を超える結果となり、高水準を保っています。国語と算数では、下記のような傾向が見られました。

国語

資料に書かれた内容をどのようにまとめるのか考える問題において、全国平均を上回りました。出題の意図を踏まえ、中心となる語や文を見つけて要約する力が身に付いていることが分かります。

算数

伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取る問題や、二つの数量が比例の関係ではないことを説明する問題において、全国平均を上回りました。



中学校 全科目が全国平均超え

全ての科目において全国平均を超える結果となりました。特に、英語は全国平均を大きく上回りました。それぞれの分析は次のとおりです。

国語

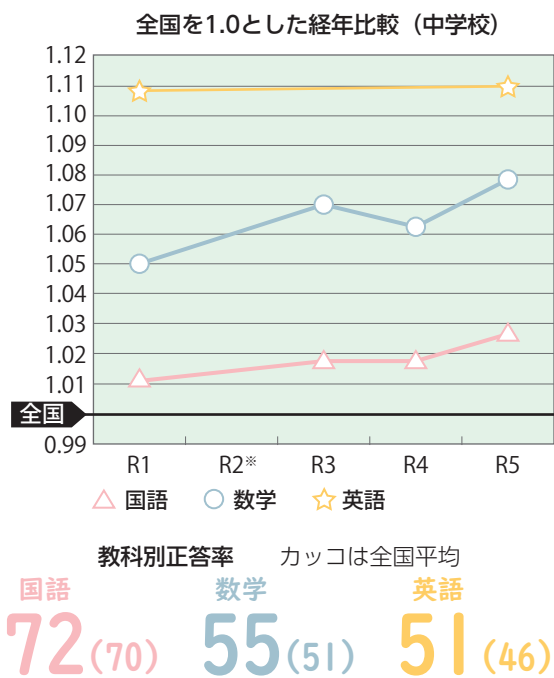
自分の考えが伝わる文章になるよう根拠を明確にして書く問題において、全国平均を上回りました。語や文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書く力が身に付いています。

数学

なぜそうなるのかを示すために式を変形して説明する問題において、全国平均を上回りました。数学で学んだことを、具体的な場面で活用する力が身に付いています。

英語

「書くこと」に関する問題では、無解答率が低く、最後まで粘り強く設問に取り組んでいる生徒が多いことが分かります。



学習状況調査

授業改善の成果 さらなる充実へ

自分の考えを深める学習 初の80%超え

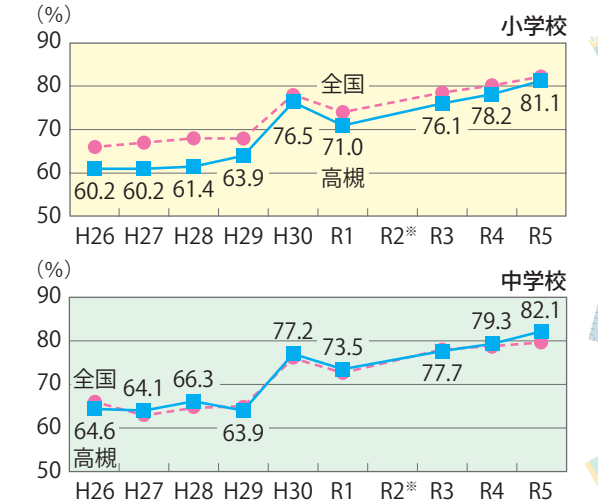
友達と協力し合って学習を進め、自分の考えを広げ深めていくことができていると感じている児童生徒の割合が、初めて80%を超えました。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、仲間と協力しながら、自分の考えを広げ深めていくことができていると思われます。

右のグラフのとおり、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善が、各校で着実に進められている成果が表れています。



「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか」という質問に、肯定的な回答をした割合



自学自習定着へ より一層の充実を

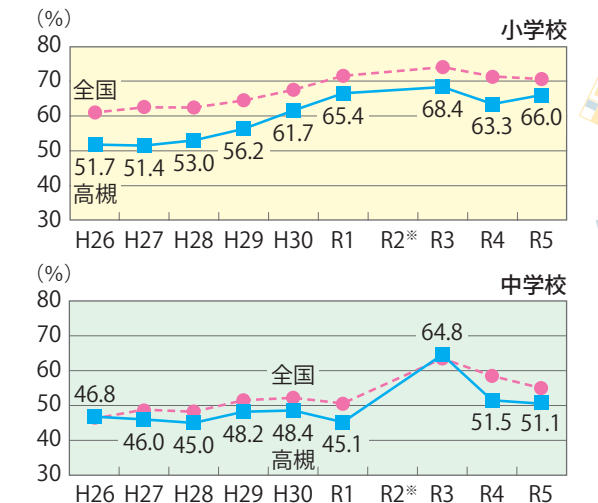
家庭学習に関する質問では、自学自習の定着に関して課題が見られます。放課後の時間の使い方など、学校と家庭が連携した取り組みが必要です。

右グラフのように、小・中学校ともに全国平均を下回る結果になりました。社会状況が変化し、放課後の過ごし方が多様化していますが、家庭で計画的に学習を行う習慣を身に付けることが重要です。

学習計画の立て方などを具体的に指導する場面を設けるなど、放課後の時間の使い方について学校と家庭が連携しながら取り組む必要があります。



「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」という質問に、肯定的な回答をした割合



⇒次ページに授業改善の取り組み「個別最適な学びと協働的な学びの実現」を紹介します

教育現場を見てみよう

個別と協働のサイクルでより深い学びへ

全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学びの実現」について研究している玉川小学校4年生での取り組みを紹介します。

私がお答えします

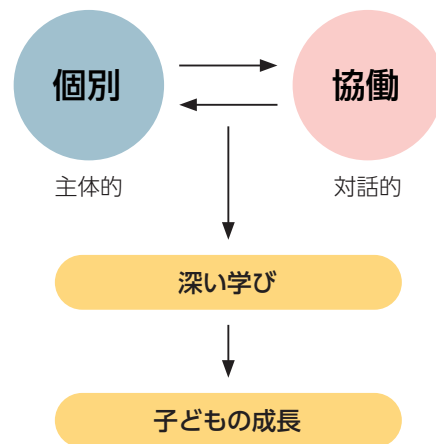


栗原真帆教諭

受け身にならない みんなで成長

個別・協働両方の学習を充実させることは、一人一人が自分に合った学習方法を見つけたり、対話して周囲の協力を得たりする力を育てます。教員は、子どもたちが受け身にならないように、「やってみよう」という気持ちに寄り添い、子ども同士がつながりの中で学んでいく姿勢をサポートします。

個別・協働のイメージ

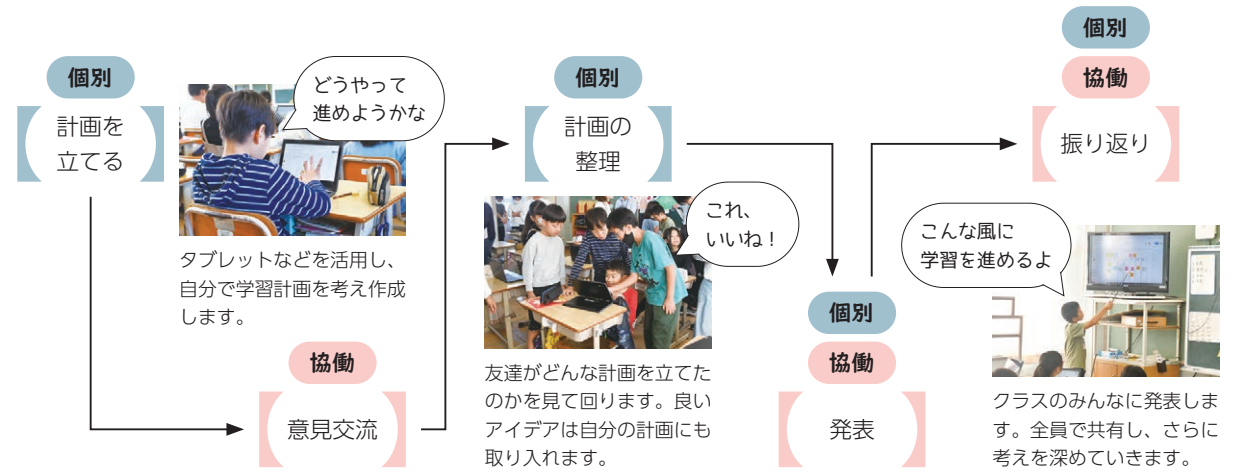


「やってみよう」学びを自分で計画

個別・協働の学習を組み合わせる授業が行われています。今回取材したのは、国語の授業の1コマ。「ストレスの対応法」をテーマに学ぶ初回の授業で、今後の学習計画を作成していました。

計画を自分で立てることで、主体的に取り組む姿勢が身に付きます。また自分に合った学び方、学ぶ内容を

量を調整し、学習を進めることにもつながります。今回の授業では、まず個別にタブレットで情報を集めて整理し、計画を立てます。そしてクラスの仲間と意見を交換し、自分の計画を修正。さらにクラス全体で発表することで、自分の考えと相手の考えを比較し、理解を深めていきました。



個別・協働の授業デザイン

個別最適な学びのポイント

主体性を育む

子どもには、学び方や学習の進み具合など、それぞれ個性があります。一律の指導ではなく、その子に一番合った方法で、かつ自ら学びを深められるように促すのがこの取り組みのポイント。

例えば調べ学習では、タブレットを使う、図書館で調べる、誰かに聞くなどの方法があります。どのように学ぶか、自分で考えることで、より深い理解へとつながっていきます。

Q. どうやって勉強を進めていますか？

タブレットも使います



本城結愛さん
分からないことは先生や友達に聞いたり、タブレットを使って調べたりしています

友達の意見も聞いて



松田和美さん
いいなと思った意見は取り入れて、学習の計画を立てています

個別・協働のサイクルのイメージ
循環することで深い学びにつなげます

まずは自分で調べる



- ・調べ学習
- ・思考を深める学習
- ・学習の振り返り など

こんな考え方もあるんだ



- ・意見の交流や整理
- ・グループワーク
- ・地域との交流 など

協働的な学びのポイント

対話を意識

さまざまな人と対話することで、異なる考え方が組み合わせられ、より良い考えにつながることを目指しています。

対話のポイントは、相手の意見と自分の意見を比べ、似ている点や異なる点を理解すること。そして良い部分を取り入れるかどうか、考えるように促します。

各授業では意見交流やグループワークを積極的に活用。生き生きとした対話から生まれるアイデアに驚かされることも多いです。

Q. みんなで話し合うことのいいところは？

授業が分かりやすい



中西咲香さん
隣の人以外にも聞ける時間があるって、授業が分かりやすいです

チャレンジできます



林田瑠菜さん
苦手な科目は友達に聞けるし、得意な科目は教えてあげられます

新しい発見も



杉元心咲さん
自分とは違う意見を聞いて、新しい発見があります